

まちづくり懇談会 持続的なまちづくりについて 説明内容

令和 7 年 2 月 17 日～21 日

- ・持続的なまちづくり「事務事業アセスメント」と「公共施設マネジメント基本計画」について、資料 2 に基づいて説明させていただく。
- ・資料 2 の 1 ページ目の下、「カイゼンの視点」ということで、今回の見直しの視点は、「例えば合併した当時の人口と同じ規模で提供しているサービスはないか」、「10 年後を見据え、スリム化に着手する必要があるものはないか」、「人員不足によってサービスの破綻が目に見えているものはないか」といった、多くの視点に基づいて様々な見直しを行っていかうと考えている。
- ・ただ単に、お金が無いから事業を廃止・縮小する、公共施設を統合・廃止する、という訳ではなくて、人口規模に合わしていかないと経費ばかり嵩んで、本来、実施しなければならない。継続しなければならない事業が出来なくなる恐れがある。
- ・少ない人口で、多くの事業、施設を維持管理していかななくてはならない状況にあり、このままだと将来の人たちに負担（借金）を背負わすことになる。
- ・既に一部の施設では管理する人を募集しても応募がなく、運営に支障が生じている施設もあり、行政としても苦渋の方向性であるが、人口規模に合わせた事業や施設への見直しに皆様のご理解をいただきたく、今回の説明会となっている。
- ・具体的に 2 ページを御覧いただきたい。合わせて資料 3 にも詳しく記載しており、主な見直し対象事業を記載している。
- ・事務事業アセスメントとは、行政評価の仕組みであると同時に、抽出により選定した事業の一定のスクラップを念頭に置いた行政改革の手法として実施している。
- ・今回の事務事業アセスメントは、職員の意識改革、そして部局長のリーダーシップを発揮する仕組みとしても実施。部内、庁内で協議を重ね、7 年度から 9 年度予算にかけて計 17 事業、事務の効率化・行政サービスの適正化で 8 事業を見直し対象事業と位置づけたところである。

【事務事業アセスメント】

（令和 7 年度予算実施に向けて説明）

①国際交流・地域間交流事業

- ・みよし市との交流については、特に子ども達の交流において、人口の差などから既に今までと同じ交流が困難になっていることから、段階的に縮小していく考え。
- ・ゴールバーン・マルワリー市との国際交流は、派遣人数は都度検討しながら、当面、事業を継続する。

②季節移住対策事業

- ・冬期間において各地域から中央地区への移住する制度。この間の取り組みにおいて、すぐには解決が困難な課題が多くあり、一度立ち止まって見直す必要があるとの判断から休止とした。

③単位老人クラブ補助事業

- ・北海道の補助金に市が上乗せして補助してきたが、段階的に道の基準に合わせるよう見直しを進める。

④老人クラブ連合会運営事業

- ・「交流会等送迎費用」の支出方法や回数を見直そうとするもの。
- ・③と④の両事業は、連合会役員や単位クラブ会長などを対象に説明会を開催している。

⑤子育て世帯サフォークポイント支援事業

- ・子育て世帯に2倍のサフォークポイントが付与される事業だが、ポイント付与が一部の世帯に偏るなどの課題があることから廃止とした。

⑥労働福祉対策推進事業

- ・連合北海道士別地区連合会に対して「メーデーの開催費」へ補助金を交付していた。今後は補助金を受けずに事業を実施することとなったため、補助金を廃止する。

⑦図書・資料整備事業、⑧図書館管理運営事業

- ・文科省が望ましいとする基準の2倍近い蔵書を有する現状などから、サービス水準を見直すこととした。
- ・市民の皆様が図書に親しむ機会を確保しつつも、7年度から段階的に適正な規模にしていく考え。

⑨あさひサンライズホール管理運営事業

- ・6年度で指定管理期間が満了することから、受託者の舞藝舎との協議で、管理業務を精査し、再指定に向けて手続きを進めている。

(令和8年度予算実施に向けて説明)

①グリーンパートナー推進事業

- ・農業に従事されている方を対象に出会いの場を創出する事業で、今後は、農業従事者のみならず他業種や移住者なども対象とし、本事業については、段階的に縮小や統合、廃止を検討する。

②みよし市・川内村小学生交流事業

- ・本市から派遣できる児童数が減少することから、オンラインによる交流を検討する。

③市民自主企画事業

- ・市民の学習活動に支援しているもの。この数年、利用団体の固定化や利用が数件となっていることから、7年度末をもって廃止する考え。

④高齢者学習推進事業

- ・高齢者の生きがいづくりや、同世代の広いつながり作りを目的とした事業。
- ・多彩な講師やテーマのカリキュラム作成が難しく、8年度からカリキュラムを見直す考え。

⑤総合型スポーツクラブ推進事業

- ・各地区のスポーツクラブが、自主的に事業展開し、生涯スポーツの普及やスポーツを通じた地域づくりの推進が目的。
- ・実施する事業は、バラツキなどがあることから運営委員会とも協議し、8年度から縮小する考え。

(令和9年度予算実施に向けて説明)

①高齢者入浴料助成事業

- ・現在の住環境から入浴設備を持たない世帯がほぼないこと、また、利用実態から利用者間で公平性に欠けた状況が見受けられることなどから、8年度末で廃止する考え。

②いきいき健康センター管理運営事業（ぷらっと）

- ・ぷらっとは、民間銭湯の廃止に伴い、入浴機会の維持を目的に設置した。
- ・現在は、自宅に入浴設備がある方がほとんどであり、市内中央地区には他の入浴施設もある。
- ・今後、大規模な整備が必要になることから、8年度末をもって廃止する考え。
- ・なお、8年度末までに大型設備の更新が必要となった際は、前倒しして廃止したい。

③世界のめん羊館管理運営事業

- ・今後、「観光施設としての位置づけ」、「運営費用や管理方法の検討」、「羊による観光施設としての経営体制」を念頭に、総合的な検討を進める。

(事務の効率化・行政サービスの適正化について説明)

①投票所の見直し

- ・有権者数が100名を下回る、または、近い将来下回ることが見込まれる投票所について、地域との協議のもとで投票所の統合を行うもの。
- ・具体的には、中多寄と川西地区の投票所を、この夏の参議院議員選挙から隣接する投票所に統合する。

②電子決裁・電子文書管理の推進

- ・市役所内にシステムを導入し、仕事の仕方を変えながら、事務効率の向上を図るもの。

③オンライン会議の推進

- ・本庁舎と朝日支所、出張所による会議については、オンラインを基本とし、移動時間や燃料費などの縮減をめざしていく考え。

④地域担当職員制度の廃止

- ・現在、地域要望は、地域担当職員を介さず提出されていることや市長への手紙、メールなどで市民意見をいただいている。
- ・地域政策懇談会は、コロナ禍以降、開催ができない状況。参加者数も減少していることから、7年度末で廃止する考え。

⑤さほっちメールの廃止

- ・3G サービスの廃止が決まっており、6年度末で廃止し暮らしナビへの移行を促していく。

⑥高齢者実態調査の廃止

- ・地域担当職員の廃止に伴い、実施しないこととする考え。
- ・これまで、調査で聞き取りしている困りごとなどから相談につながるケースは少ない状況であり、6年度をもって廃止する。

⑦長期閉庁時の市役所臨時開庁の廃止

- ・令和元年度から廃止しており、継続していく考え。

⑧福祉灯油助成方法の見直し

- ・既に、今年度から助成券方式から現金給付方式へ変更して実施している。対象者や給油業者の意向を尊重し、この双方の改善を図ったもの。

【公共施設の最適化】

- ・平成17年の合併から20年が経過する中で、重複施設の解消が大きな課題となっている。
- ・平成29年度から「公共施設マネジメント基本計画」をスタートし、公共施設の総床面積を20%削減する方針で進めている。

(統合予定の施設)

- ・これまで可能な限り施設の長寿命化を図ってきたが、統合予定の4施設は、すでに限界を迎えつつあり統合を予定した。
- ・「市民文化センター大ホール」と「あさひサンライズホール」は「大ホール」が耐震化されておらず、年間の利用実績も限定的であることから、「あさひサンライズホール」に令和12年3月までの5年以内に統合をめざす考え。
- ・「日向スキー場」と「あさひスキー場」は、「あさひスキー場」が設置後44年が経過し、機器整備の実施により長寿命化を図ってきた。しかし、施設の耐用年数も超えており、老朽化により利用者の安全性確保が課題となる。

- ・引き続き、利用団体と協議し、8年3月をもって、「日向スキー場」への統合をめざす考え。
- ・「南郷プール」と「朝日プール」は、「朝日プール」が設置後56年が経過し、これまでプール本体の塗装やボイラー整備などを行っているものの、施設本体の老朽化が著しく、8年3月をもって、「南郷プール」への統合をめざす考え。
- ・「農畜産物加工体験交流工房の一む」と朝日地区の「農産加工実習施設」について、「の一む」は、経年劣化によるボイラーなどの設備更新が必要なことや、将来に向けては、2つの加工施設の維持は難しく、8年3月をもって朝日地区の「農産加工実習施設」への統合をめざす考え。

(廃止・休止予定の施設)

①天塩川パークゴルフ場

- ・パークゴルフ人口が減少傾向のなかで、複数のゴルフ場を維持することが難しく、9年3月までの2年以内に廃止をめざしていく考え。

②つくもスケート場

- ・スケート場の設営や管理が難しいうえ、作業機械も老朽化している状況。あわせて管理棟の老朽化により、一部利用を制限している状況で、利用者も少ないことから、9年3月までの2年以内に廃止をめざしていく考え。

③つくもカーリング場

- ・氷の状態が天候に左右され、安定した施設の提供が難しい状況にある。また、管理棟の老朽化により、一部利用を制限している状況であることなどから、9年3月までの2年以内に廃止をめざしていく考え。

④天塩川テニスコート

- ・多くの市民は、ふどうテニスコートを利用しているため利用者は非常に少ない状況。国の補助を活用しているため、すぐに廃止は出来ないが、8年3月をもって休止とする考え。

⑤朝日多目的交流施設

- ・築後24年が経過し一定の修繕や設備の更新が予想されるほか、利用数が減少していることから、8年3月までに廃止をめざしていく考え。

⑥茂志利活性化センター

- ・地区の営農者が3戸で、利用実績もないことから、7年3月をもって廃止する。

⑦朝日公民館壬子分館、⑧三栄分館、⑨登和里分館

- ・地域のコミュニティ活動を推進するため、中心となってきた分館である。各分館とも老朽化、利用者が減少しており、8年3月をもって分館を廃止し、機能は朝日公民館に統合する。

(施設のあり方を継続協議する施設)

- ・「朝日中学校」、「土別東高校」、「まなべーる」、「総合体育館」の4施設は、移転や改修・新築などにより、施設の機能としては存続させるべきものとして、引き続き検討していく。

【おわりに】

- ・これまでの関係団体等との協議や今回のまちづくり懇談会などの説明会で、市民の皆様の理解が少しでも深まるように努める。
- ・本市では多くの類似施設、老朽化施設がある。引き続き、将来を見据えた施設のあり方、最適化を検討していく。